

SY4-3

家族の危機を力にする～急性疾患のこどもと家族への支援～

浅井 桃子

兵庫県立こども病院

こどもが突然に病気になった時、病状の不安定さやこどもの辛そうな姿等、様々な要因により家族は危機的な状況に陥ることがある。特に、近年は核家族化により家族内で得られるサポートが限られていることや、インターネット等で様々な情報があふれているために判断が難しく、家族が混乱している状況が見受けられる。そのため、こどもが軽症であっても家族は危機的な状況に陥る可能性があると言える。

家族メンバー個人の危機と、集団としての家族の危機は異なるものである。危機は、強度な不安や喪失といった困難な状況に直面してこれまでの対処方法では事態を開きできないときに生じるものとされている。集団としての家族の危機とは、これまで困難な状況や課題に取り組むために家族が行ってきた対処方法がうまく機能していない状況である。家族メンバー個人の危機は、混乱、絶望、無気力などの感情を生じさせるのに対し、集団としての家族の危機は、家族メンバー個人それぞれの動揺が強く、家族メンバー同士のコミュニケーションが取れず、必要な意思決定が困難となるといったことが生じる。

危機は家族にとって辛い体験ではあるが、その一方で重要な転換点となるという意味を持つ。つまり、家族が困難な状況を体験する中で、家族メンバーが一体となって関係が強固になる、これまでとは違った新たな対処方法を獲得できる等、それまでの家族が変化し、成長する機会にもなる。

このような危機的な状況に直面している家族に対する支援としては、家族メンバー個人の情緒的安定を図るとともに、集団としての家族の機能の回復を目指すことが基本となる。こどもの病気や事故によって混乱し、激しく動揺している家族メンバーに対し、情緒的な支援を行いつつ、家族メンバー同士のコミュニケーションを促し、家族メンバー同士を思い合えるような状況を作る等の支援を行う。このように集団としての家族の機能の回復を見据えた支援を行うことにより、家族が主体的に困難な状況に立ち向かえる素地を作ることにつながる。これが、家族が危機を体験して得た新しい力となり、その後の経過の中で直面する新たな困難に対処できる家族の強みとなる。

本シンポジウムでは、危機的な状況に直面した家族への支援を事例とともに報告し、会場の皆さんと共に急性疾患のこどもと家族への支援について検討したい。